

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分大好き 友だち大好き 共に学ぶ子 実践する子」
 ○自分の考えをしっかりと持ち、積極的に表現しながら、主体的に学習する子を育てます。(知)
 ○人に対して優しく思いやりをもって行動し、人の心の痛みのわかる子を育てます。(徳)
 ○基本的生活習慣を身につけ、健康の保持増進を図ると共に、命あるものを大切にしようとする子を育てます。(体)
 ○地域の環境や人を大切に、進んで人のためになる行動の取れる子を育てます。(公)
 ○いろいろな人とのコミュニケーションを大切に、よりよい生活について考える子を育てます。(関)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

| 主体的に課題解決する力 | | 具体化した資質・能力 | |
|-------------|--|----------------------------------|--|
| コミュニケーション力 | | 自己肯定感 主体性・積極性 | |
| | | 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深める力 | |
| | | 問題を発見する力 試行錯誤する能力 | |

中期取組目標

○子ども一人ひとりに向き合い、「ひと」や「まち」との関わりを大切にした、活力と魅力あふれる学校づくりを進めます。
 ・子ども同士の関わり合いと認め合いを育み、新学習指導要領に沿った学習活動を展開します。
 ・特別支援教育の視点を大切に、問題解決学習型の授業づくりに取組み、進んで問題を解決していく子どもを育てます。
 ・家庭・地域・関係機関との連携をより一層強め、子どもの心に自尊感情・自己有用感を高めるように取り組んでいきます。
 ・楽しみながら学び、健康・体力の向上に寄与する学習の充実を図ります。
 ・全教職員が互いに学びあい、啓発し合って自らの力を磨いていく学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|---|
| 授業改善 | ①教科分担任により、教材研究を充実させ、身に付けさせたい資質・能力をしっかりと育む指導を行うとともに、指導と評価の一体化を図る。 ②国語科の重点研究を通して、児童の主体的に問題解決する力、自分の考えを表現する力を高める。 |

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態
 学力は、全体的に横浜市の平均に比べ上回っている。4教科とも、「知識・技能」「思考・判断・表現力」ともに、市の平均よりも高い傾向にある。
 しかし、生活意識・学習意識については、市の平均に比べ児童の意識は低く、学年によるばらつきもある。特に、「自分の考えを相手に分かりやすく伝えていきますか」と「問題を解決するときにはじっくりと考えた上で物事を判断するようにしていますか」の質問に対し、「そう思う」と答える児童の割合が市の平均より低かった。

(2) これまでの学校の取組状況
 昨年度まで、算数科の学力向上をねらいとして、校内研究の実践を進めてきた。児童が問題意識をもち主体的に取り組む、見方や考え方をはたらかせて課題を解決できるように、教材教具や学習展開の工夫に取り組んできた。また、3年生以上で教科担任制を取り入れている。教師の専門性を生かす指導により、身に付けたい資質能力を育成できるように授業改善に取り組んでいる。

今年度の目標

身に付けたい力を明確にした指導と評価のあり方
見方や考え方を働かせて、主体的に学ぶ授業づくり

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|---|
| 《身に付けたい力を明確にした指導と評価》 ○資質・能力の捉え方について、学年研を中心に共通理解を図る。 ○目指す子どもの姿(授業のゴール)をイメージし授業展開を考える。 《問題解決的な授業展開の工夫》 ○子どもがやってみたいと思える教材や導入を工夫する。 ○主体的に学習に取り組むことができる「めあて」を設定する。 ○「めあて」や本時の学習の流れが分かる板書を工夫する。 | 《身に付けたい力を明確にした指導と評価》 ○資質・能力が身に付いたかを日々の授業の中で評価し、次の学習指導に生かす。 ○目指す子どもの姿(授業のゴール)をイメージし、具体的な手立てを工夫する。 《問題解決的な授業展開の工夫》 ○子どもがやってみたいと思える教材や導入を工夫する。 ○「めあて」が達成できたかを児童が振り返り、分かったこと・できるようになったことを意識できるようにする。 ○1時間の子どもの思考の流れが分かる板書を工夫する。 |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 人権教育 | ①「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指し、児童会活動を中心に挨拶やよりよい人間関係を構築する活動を行う。「学校のきまり」について児童が主体となって考え「子どもによる子どもためのきまり」になるように改善を図る。②横浜プログラムを積極的に活用しながら、児童理解や児童の実態を把握し、友達の見聞き入れ、発表しやすい温かい雰囲気づくりなど、人権を意識した授業づくりを行う。③日々の道徳授業では、自分の在り方を振り返ったり、自ら課題を立てたりすることで、自他を認める心が育つようにする。人権週間では、テーマに沿った道徳の授業を実施し、児童会を中心とした取組に全校が関わり、学校全体で人権について考えられるようにする。 |

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 生活意識に関わる児童の実態
 令和4年度横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査の結果を見ると、どの項目においても市の平均を下回っていることが分かった。「自分のことが好きですか」という問いに対しては市の平均が31%のところ、本校は27%であった。また、「自分にはよいところがありますか」という問いに対しては、市の平均が42%のところを本校は35%であった。全体的に「自己肯定感」が低いことが分かった。

(2) これまでの学校の取組状況
 委員会活動を中心にあいさつ運動やちくちく言葉、ふわふわ言葉など言葉を大切に人間関係を構築する活動を行った。また、日々の道徳授業では、自他を認める心が育つようになり、人権週間では、テーマに沿った道徳の授業を実施したりするなど、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを目指してきた。また年2回、YPアセスメントを行い、児童理解に努めてきた。自分のよさに気づき、自己肯定感を高め、自他ともに大切にすることを育てていきたい。

今年度の目標

自分のよさに気づき、自己肯定感を高めると共に、自他の違いを受け止め、自他共に大切に
する心情を育てる

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|---|
| 《児童会を中心とした取組》 ・委員会活動を中心としたあいさつ運動を取り組み、友達と大切にすることを育てる。 ・ちくちく言葉やふわふわ言葉を明確にし、ふわふわ言葉を大切にしながらより良い人間関係を構築することができるようにする。 《横浜プログラムを活用した取組》 ・YPアセスメントを行い、児童の実態を把握したり、児童理解に努める。 ・児童一人ひとりの実態を把握し、学年間や学全体で共有する。 ・日々の授業を人権を意識した授業を心がけ、自己肯定感を高められるようにする。 ・学級の実態に応じた横浜プログラムを実施し、自他の違いを受け止め、自他共に大切に する心情を育てる。 《道徳授業》 日々の道徳授業で、自分の在り方を振り返ったり、自ら課題を立てたりすることで、自他を認める 心が育つようにする。 | 《児童会を中心とした取組》 ・委員会活動を中心としたあいさつ運動を取り組み、友達と大切にすることを育てる。 ・ちくちく言葉やふわふわ言葉を明確にし、ふわふわ言葉を大切にしながらより良い人間関係を構築することができるようにする。 《横浜プログラムを活用した取組》 ・YPアセスメントを行い、児童の実態を把握したり、児童理解に努める。 ・児童一人ひとりの実態を把握し、学年間や学全体で共有する。 ・日々の授業を人権を意識した授業を心がけ、自己肯定感を高められるようにする。 ・学級の実態に応じた横浜プログラムを実施し、自他の違いを受け止め、自他共に大切に する心情を育てる。 《人権週間での取組》 テーマに沿った道徳の授業を実施したり、児童会を中心とした取組に全校が関わり、学校全体で 人権について考え、自他共に大切にすることを育てる。 |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 健康教育 | ①体力向上のため、新体力テストの活用や日常の体育科学習の計画的な実践を継続する。②学校保健委員会では「ネット依存・ゲーム障害の予防」をテーマにし、それらが生活や心身に与える影響を知り、自ら予防につなげられる生活ができるように意識を高め実践していく力を養っていく。また児童のみならず保護者にもそれらを伝える機会を設定し、家庭で取り組めるよう啓発していく。 |

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態
 体力・運動能力調査の各項目で市平均と同じ傾向の記録が見られた。20mシャトルラン(持久力)、反復横跳び(敏捷性)、ボール投げ(投能力)は、全国を下回っている。体育の授業以外の運動時間やスポーツをしている児童も平均的である。睡眠時間の確保や朝食をとる習慣は概ね身に付いている。遊びや運動の傾向に偏りがあると考えられる。運動時間を確保し、バランスよく体力が向上するように、児童一人一人に体力に関する課題を把握させながら、運動習慣の改善ができるように引き続き取り組んでいく。

(2) これまでの学校の取組状況
 規範意識の醸成や生活環境の改善に努めている。しかしながら、保健室の利用では怪我が多く見られ、中には大きな事故につながるケースもある。学校のルールを児童支援専任のもと全体で共通理解を図り守るよう取り組んでいく。また、児童の心のケアも同様に必要とされ、児童や保護者との相談、SGなど関係機関との協力や連携を積極的にしている。

今年度の目標

心と体の健康を管理し改善する力を養う
自分の心と体を大切に
する気持ち

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|--|---|
| 《体育科での取組》 ○体・運動の特性に触れながら、基本的な動きや技を身に付ける。 ○学習に対する見通しや自分に合っためあてをもち、意欲をもって段階的に取り組む。 《他教科での取組》 ○日常の給食指導を通して、栄養と健康の関係等への理解を深める。 《特別活動・総合的な学習の時間》 ○健康診断・指導では、心身の発育・発達への理解、自分の心身を大切に する気持ちをもつ。 ○スポーツテスト、水泳学習を通して、体力の向上や心身の健康を管理・改善する力を育む。 ○ふれあい活動の異学年交流、あいさつ運動では、他者を理解する態度、自己を理解する姿勢を身に付ける。 ○学校保健委員会では「スマホ依存・ゲーム依存の予防」を目指し、正しい知識を身につけ、一人ひとりが生活の中でどのように取り組むことが大切かを意識させ、実践につなげていく。 ○学校のルールを確認し、児童自ら、けがの予防ができるよう取り組む。 | 《体育科での取組》 ○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう。 ○友達と積極的に話し合ったり、関わったりしながら、自分や友達によさに気づき、それを自分の学習に取り入れ、「努力すればできる」という自己肯定感を感じる。 《他教科での取組》 ○家庭科学習では、食育との関連を図る。 ○生活科、理科では、保健の授業と関連付け、生命の尊さを指導する。 《特別活動・総合的な学習の時間》 ○運動会、スポーツ交流会では、運動に積極的に取り組む姿勢を身に付け、仲間と関わり合いながら運動したり競争したりする喜びや楽しさを味わう。 ○学校保健委員会では自分の生活の中でスマホ依存ゲーム依存に陥らないように生活の中で工夫し、これからも実践を継続していけるよう取り組んでいく。 |